

経営比較分析表（令和6年度決算）

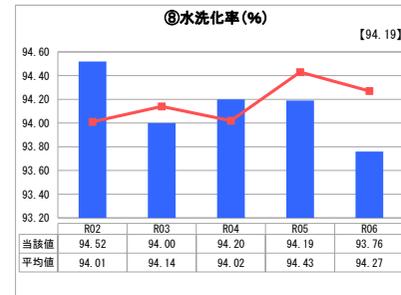
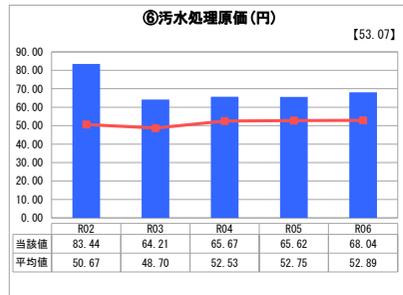
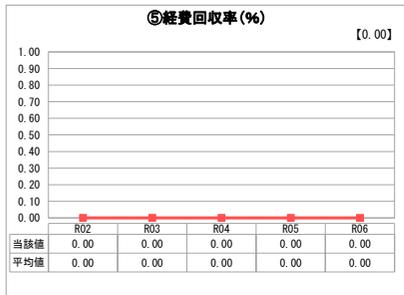
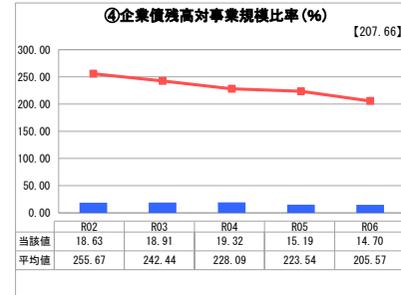
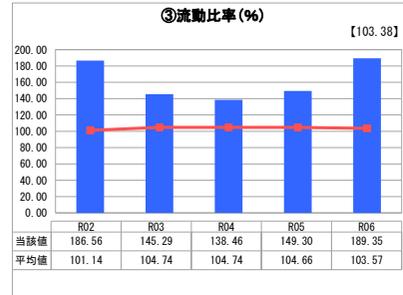
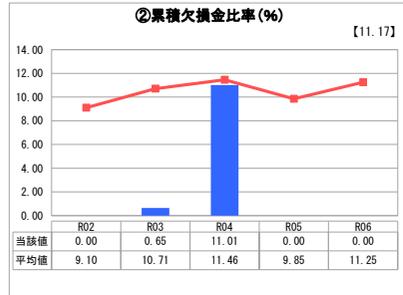
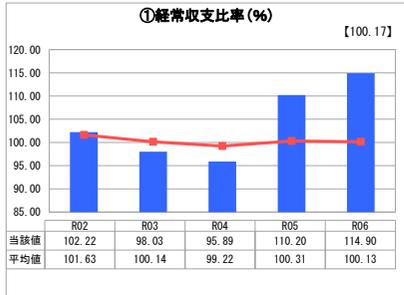
栃木県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	流域下水道	E1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	85.27	33.93	99.43	0

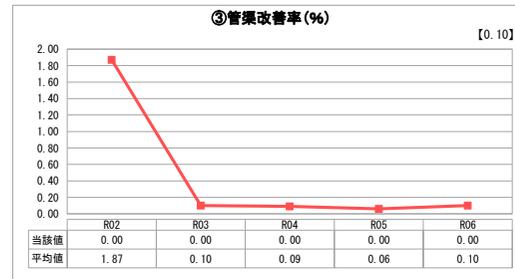
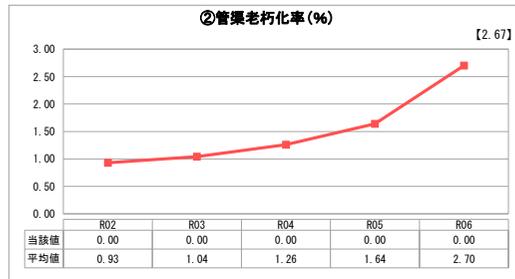
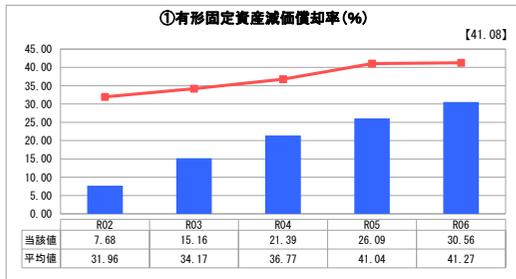
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
1,904,173	6,408.09	297.15
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
421,653	123.57	3,412.26

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度は、予算時に電気料金等の高騰を見込み、市町負担金を増額したが、電気料金が当初の想定を下回ったことから①経常収支比率は100%を上回っており、②累積欠損金は解消しているため累積欠損金比率は0%である。

- ③流動比率
100%を上回っていることから、支払能力に問題はない状況である。
- ④企業債残高対事業規模比率
令和元年度以前に発行した企業債の償還財源は一般会計負担であることから、当該指標は類似団体と比較して低い水準となっている。
- ⑥汚水処理原価
前年度と近似値となっており、類似団体と比較すると依然として高い水準にあることから、経営効率が悪い処理区に係る要因分析を進めていく必要がある。
- ⑦施設利用率
類似団体平均値と同水準で推移しており、一日最大処理水量の実績を考慮すれば、施設規模は過大ではないと言える。
- ⑧水洗化率
流域下水道に接続する公共下水道の区域は拡大しているものの、水洗便所設置済人口の減少に伴い水洗化率は減少していることから、使用者の増加に注力し、改善を図る。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
地方公営企業へ移行したのは令和2年度であるため、減価償却累計額と類似団体平均値との間には差があるが、施設の長寿命化等計画的に進めることで減価償却率の安定化を図る。
- ②管渠老朽化率・③管渠改善率
本県では法定耐用年数（50年）を超過した管渠はないことから、当該指標は該当なしとなっている。
本県においては昭和51年度に流域下水道事業に着手し、幹線管渠は平成25年度に概成している。今後3年以内に幹線管渠が順次耐用年数を迎えることから、ストックマネジメント計画に基づき、計画的かつ効果的に修繕・改築を行っていく必要がある。

全体総括

- ・各経営指標の状況から、令和6年度時点における経営状況は概ね健全であると言える。
- ・流域関連市町における人口減少に伴う収入の減少や老朽化対策に伴う支出の増加等により、経営環境はより厳しくなっていくことが見込まれる。
- ・経営戦略に基づいた計画的な経営管理を行うとともに、徹底した経営健全化及び効率化に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。